

9-4 ユカラ

「サクソモアイエプ」(3)

サクソモアイエプ退治(3)

語り：平賀さだも

アフナン キ ワ
ahun=an ki wa
私が入って

アシエトクサモロ
a=sietoksamor-
前方に

ウ シクイルケ
u sikuyruke
目をやって

インカラン ルウエ
inkar=an ruwe
見たのは

エネ オカ ヒ
ene oka hi
このようだ。

エアシラナ
easirana
それこそ

カムイ ネ アン クル
kamuy ne an kur
神なる人

エライヌ カネ (?)
eraynu kane(?)
XXX

シパセ カムイ
sipase kamuy
重い神

ウタラ オロケヘ utar orkehe	たち
ウ ネ プ ネ クス u ne p ne kusu	であるから
クンネ コソソテ kunne kosonte	黒い小袖を
ウ ヤイネナイネ u yaynenayne	そろいで
エシピネ クル esipine kur	身につけている者
イキ コロカイキ iki korkayki	だけれども
カム…… カムイ ラメトク kam... kamuy rametok	神なる勇士は
ラメトク イポロ rametok ipor	勇士の顔色
エイポットウンマ eipottumma-	顔つきからして
コシンナ カネ kosinna kane	(他とは) 違う様子で
ウ ロク ワ オカ u rok wa oka	座っている。
メノコ ネ ヤッカ menoko ne yakka	女も

ポロ スクプ ワ
poro sukup wa

年たけて

イキ コロカイキ
iki korkayki

いるけれども

シノ ヌプル ペ
sino nupur pe

本当に巫術の強いもの

チェソネレ
ciesonere

と思しく

オカ ルウエ ネ。
oka ruwe ne.

いるのだ。

イヌカン ロク ペ
i=nukar_ rok pe

私を見た者は

ウ ネプ ピトホ
u nep pitoho

どんな神を

コシクライパ ペ
kosikraypa pe

見たかのように

イトゥカリケ
i=tukarike

私の手前に

オトゥ スイ コンナ
otu suy konna

二度も

オレ スイ コンナ
ore suy konna

三度も

コシケラナ
kosikerana-

目を低く

ウ ランケ カネ u ranke kane	落として
イヤアン…… ウ ソ トウラシ iyaan... u so turasi	座を上手に
エパキ ヒネ ep a=ki hine	私は行って
ヘカリソ パ hekariso pa	上座で
コイサンコッカ koysankokka-	膝をそろえて
エシッチウレ コロ esitciwre kor	座ったところで
カムイ ネ アン クル kamuy ne an kur	神なる勇士は
ラチウリキクル raciwrikikur-	目を
ウ プンパ ヒネ u punpa hine	上げて
イタツカラ カネ itakkar kane	言うには
ネコン ネ ハウエ…… (?) ^[1] nekon ne hawe...(?)	どう言ったら…… (?)
ラチウリキクル raciwrikikur-	目を

ウ プンパ ヒネ u punpa hine	上げて
イタックツチャマ itakkutcama	話し方は
ウエトウヌイセ uetunuyse	滔々と
エネ オカ ヒ ene oka hi	このように言った。
「コニンカラ クス “koninkar kusu	「さてさて
カムイ ネ アン クル kamuy ne an kur	神なる人
カムイ ラメトク kamuy rametok	神なる勇士よ、
エネ イタク カ ene itak ka	こう話すにあたって
アエオリパク コロカ a=eoripak korka	おそれおおいことだが
フナツケクス hunakkekusu	せつかく
エセレマク オロケ e=sermak orke	あなたの背後を
アエアン マ クス a=ean w_a kusu	守るために

アウエンマツネボ a=wen-matnepo	わが不肖の娘に
クスリ アセレ kusuri a=sere	薬を背負わせて
エタウテク…… エタムテクサマ etawtek... e=tam-teksama	あなたの刀の側で
タモマレ キ ヤン tamomare ki yan	刀を取るように (と)
アウテツカン ルウエ a=utekkar_ ruwe	使いにやらせたの
ウ ネ ア コロカ u ne a korka	だったけれど
ヤイヌアン ヒケ yaynu=an hike	思ったことは
フナツケクス hunakkekusu	せっかく
エタ…… エ…… エセンピリ オロケ eta... e... e=sempir orke	あなたの陰を
ウタツ トウラノ utar_ turano	仲間と共に
アエプンキネ ア プ a=epunkine a p	守ったのだから
ソモ イコシニ ノ somo i=kosini no	私のところで休まずに

エホシピ° カ
e=hosipi ka

あなたが帰るのを

アエヤイランポキウエン マ
a=eyayrampokiwen w_a

私は残念に思った

タパンペ クス
tapanpe kusu

それだから

シコシニヤラ^[2]
sikosiniyar

私のところで休ませ

ウ アキ ハウエ ネ
u a=ki hawe ne

たのです。

イキネイペカ
ikineypeka

決して

トゥム アン ケウトゥム
tumu an kewtum

敵対心を

エコ…… イココロ クニ
eko... i=kokor kuni

私に対して持つては

ソモ タパン ナ
somo tapan na

いけませんよ。

エエトコ ウン
e=etoko un

あなたの（来る）前に

サケカラン マ
sakekar=an w_a

酒を造って

ウ アナン キ ナ
u an=an ki na

いたのですよ。

イコシニ ワ
i=kosini wa

私のところで休んで

アカラ ポイ サケ
a=kar pon_ sake

私の造ったちょっとした酒を

ク ワ イコレ ヤン
ku wa i=kore yan

飲んでください。

オロワウイ スイ
orowaun_ suy

それから

カムイ オピッタ
kamuy opitta

神々すべてを

アウエカラパレ
a=uekarpare

集めて

アフプ ナンコロ ワ
ahup nankor wa

家に入って

ネ ワ ネ ヤッカ
ne wa ne y_akka

もらったら

ウタラ オピッタ
utar opitta

仲間すべてに

エセレマクウシ ワ
e=sermak'us wa

守り神がつくことに

オカ ルウエ ネ アナ^[3]
oka ruwe ne ana

なるのだから

イキネペカ
ikinepeka

絶対に

トゥム アン ケウトゥム
tumu an kewtum

敵対心を

エコラ クニ プ
e=kor a kuni p

持たないように

カムイ ラメトク
kamuy rametok

神なる勇者よ、

エネ ナンコン ナ」
e=ne nankor_ na”

そうしてくださいよ」

セコロカイ ペ
sekor okay pe

ということを

ウ ラッチタラ
u ratcitara

ゆっくりと

トゥ ピリカ イタク
tu pirka itak

二つの良い言葉を

イコトゥリカラ
i=koturikar

述べた。

ヤイヌアン ヒケ
yaynu=an hike

私が思うことは

「オハイネ カネ
“ohayne kane

「なるほど

ルテクノ アン
rutekno an

素手でいて

ルテク ネ クニ プ
rutek ne kuni p

素手である者が

アネ ワ ネ コロ
a=ne wa ne kor

私だったから

クスリ サクノ
kusuri sakno

薬がなくては

アエペットウラシ ワ
a=epetturasi wa

私は敵わ

ソモ ネ ナンコロ
somo ne nankor

なかつただろう。

カムイ ネットパ
kamuy netopa

神の首領

クスリ コロ クル
kusuri kor kur

薬を持っている人

ウ ネ ワ クス
u ne wa kusu

であるので

イエカシヌカラ
i=ekasnukar

私に授けてくれた

クスリ ネ クス
kusuri ne kusu

薬の

ケライボ タシ
keraypo tas

おかげで

ウエン カムイ トウミ
wen kamuy tumi

悪い神の戦争を

アエポソ シリ
a=eposo siri

通り抜けたの

ネ ヒ ネ ヤクン
ne hi ne yakun

だから

アコヘポキ タシ
a=kohepoki tas

私は頭を下げ

ウ キ ナンコン ナ」
u ki nankor_ na”

よう」

ヤイヌアン カネ
yaynu=an kane

(と) 思って、

ウ ネ ラポキ
u ne rapoki

そのときに

カムイ ウタラパ
kamuy utarpa

神なる勇士が

チアウナライエ
ciawnaraye

中に入るのを

インカラン ルウエ
inkar=an ruwe

見ると

フレ コソント
hure kosonte

赤い小袖を

ウ ヤイネナイネ
u yaynenayne

上から下までそろいで着て

フレ イペ タム
hure ipe tam

赤い人食い刀を

エテンポク コンナ
etempok konna

脇の下に

コチャシナタラ kocasnatarara	すっきりと差して
オカ ウタラパ oka utarpa	いる勇士が
ウ シンナ トイネ u sinna toyne	一群となって
チアウナライパ ciawnaraypa	中に入ってきた。
ウ クンネ ホンワ…… u kunne honwa…	黒い……
クンネ コゾンテ konne kosonte	黒い小袖（を着て）
クンネ イペ タム konne ipe tam	黒い人食い刀を
シトメロシキ sitomeroski	帯に差している
カムイ ラメトク kamuy rametok	神なる勇士
ウタロロケヘ utar orkehe	たちも
チアウナライエ ciawnaraye	中に入ってくる。
タパン イクソ tapan ikuso	この酒宴の席

イクソ ケセ
ikuso kese

酒宴の席の末端

イクソ パケ
ikuso pake

酒宴の席の上端は

コキンナタラ
kokinnatara

美麗に輝きわたる。

クンネ サランペ
kunne sarampe

黒い絹の（服を身に着けた）

ウ ポン メノコ
u pon menoko

若い女が

イヨマレ クス
iomare kusu

お酌をするため

ウ ソ イクソ
u so ikuso

酒宴の席の

イクソ ケスン
ikuso kes un

酒の席の末へ

イクソ パ ウン
ikuso pa un

酒の席の上へ

イオマレ コロ
iomare kor

お酌をして

ウ ホシキ トウキ
u hoski tuki

最初の杯は

イコイヨマレ
i=koiomare

私に酌をする。

ウ ネ クルカシ u ne kurkasi	そのうえで
チセ コロ カムイ cise kor kamuy	家の主人が
イタツカラ ハウエ itakkar hawe	言うことは
エネ オカ ヒ ene oka hi	こうだった。
「シパセ カムイ “sipase kamuy	「重い神で
アネ ワ タプネ a=ne wa tapne	私はあって
オカアン キ ナ。 oka=an ki na.	暮らしているのだ。
アテケカラ サケ a=tekekar sake	私が手作りした酒を
エク ワ ネ ヤク e=ku wa ne yak	お前が飲んだら
エヌムトウムカシ (?) e=numtumkasi(?)	お前の体に(?)
チペシパレ ナ。 cipespare na.	染み渡るぞ。
クスリ シンネ kusuri sinne	薬のように

ウ ピリカ テクトウムネ^[4]
u pirka tektumne

よい気持ちを

ピリカ ケウトウム ネ
pirka kewtum ne

いい心地を

エヤイコロパレ
e=yaykorporare

お前は抱くよ。

タネ アナクネ
tane anakne

もはや

オホンノ タシ
ohonno tasi

長い間

エコラ チャシ
e=kor a casi

お前の山城に

エコシレパ
e=kosirepa

着くことは

エアイカプ ルウエ
eaykap ruwe

できないの

ネ ヒ タパン ナ。
ne hi tapan na.

だよ。

タパン テ ワノ
tapan te wano

今から

タパン トノト
tapan tonoto

この酒宴

トノト オカ
tonoto oka

酒宴の終わった

アン マ ネ ヤクン
an w_a ne yakun

後であつたら

タネポ ポカ
tanepo poka

そこでやつと

エコラ カムイ
e=kor a kamuy

お前の神は

カムイ キリサマ
kamuy kirsama

神のそばに

エコホシビ
ekohosipi

戻る

エキ ナンコン ナ
e=ki nankor_ na”

だろうよ」

セコロカイ ペ
sekor okay pe

ということを

イタク ピリカピ
itak pirkapi

いろいろな話を

オトゥ スイ コンナ
otu suy konna

二度

オレ スイ コンナ
ore suy konna

三度

エヤイコシ ワ(?)
eyaykosi wa(?)

気のおもむくままに (?)

ウ イェ イタク オシ
u ye itak osi

言って、またその後に

イイエナ…… イヌレ ハウエ
iyena... i=nure hawe

私に聞かせるので

イホマ ケウトウム
ihoma kewtum

かわいそうな気持ちを

アヤイコロパレ
a=yaykorpora

私は抱いた。

ソンノ エアシリ
sonno easir

本当に初めて

シパセ カムイ
sipase kamuy

重い神

ウ ネプ ピトホ
u nep pitoho

何の神

ウタラ オロケヘ
utar orkehe

たちが

シピンパ オツ タ
sipinpa or_ ta

身支度も

ハヨク オロ ワノ
hayok or wano

鎧から

コシンナ ルウエ
kosinna ruwe

違って

オカ ヤ セコロ^[5]
oka ya sekor

いるのか、と

ヤイヌアン コロカ
yaynu=an korka

思うけれど

ウエペケンヌ カ uepekennu ka	尋ねることも
アエヤイラムカラ クス a=eyayramkar kusu	できないので
ウ ピリカ サケ u pirka sake	素晴らしい酒を
アイコイヨマレ ヒケ a=i=koiomare hike	注がれたが
ウ ホシキノボ u hoskinopo	先に
レタン ニ アイヌ retar_ ni aynu	白木の人間
ウタロロケヘ utar orkehe	たちに
アノミ クニ a=nomi kuni	祈るべく
ホシキ パスイ ネ hoski pasuy ne	最初に捧酒箸で
アエパスイスイェ a=epasuysuye	捧酒箸を振って（祈り）
オカケ アン コロ okake an kor	そのあとで
アクク…… アク ワ ネ コロ akuku... a=ku wa ne kor	私が飲むと

イネロ…… イネロクペクス inero... inerokpekusu	なんとまあ
サケ ピリカワ sake pirka wa	酒は素晴らしく
ウ フマシヤカ u humas ya ka	(いい) 心地になることか
アエラミシカリ a=eramiskari	覚えがないほどだ。
アエケウトウムコンナ a=ekewtumkonna	私の気持ちは
アエケウトウンパケ a=ekewtumpake-	私の気持ちは
アサンペパケ a=sampepake-	心は
コシトゥリリ kosituriri	のびのびとする
ウ セムコラチ u semkoraci	かのようで
タネ アナクネ tane anakne	今は
イク ノシキネ iku noski ne	酒宴の中盤に
チパッケ キコロ cipakke ki kor	至ると

「ソンノ ウタラパ
“sonno utarpa

「本当の勇者で

エネ ワ オラ
e=ne wa ora

お前があるのなら

イク オカ パクノ
iku oka pakno

酒宴の後まで

エアネ キ ヤ？」
e=an h_e ki ya?”

いるものだろうか？」

ヤイヌアン クス
yaynu=an kusu

(と) 私は思うので

トゥ アイヌ ウララ
tu aynu urar

二つの人間の靄を

アシタシパレ ワ
a=sitaspare wa

酒宴に招待されて

アアン ルウエ カトゥ ネノ
a=an ruwe katu neno

座っている姿のように

ウ ウララ アイヌ
u urar aynu

靄の人間

イキ コロカイキ
iki korkayki

だけれど

ウ アン ルウエ
u an ruwe

(そこに) いる

ウ セムコラチ
u semkoraci

かのようにして

ウ ネイケ フイケ
u neyke huyke

どこもかしこも

ウ ホツパ ルウエ
u hoppa ruwe

やり残した部分が

オアライサム ペ
oar'isam pe

全くない（自分そっくりの）ものを

アアレ キワ
a=are ki wa

座らせて

アロロキシネノ
arorkisneno

私はこっそりと

リクイ スプヤ
rikun_ supuya

立ち昇る煙

アヤイトウラレ
a=yayturare

と一緒にになって

リクイスイ クルカ
rikuysuy kurka

天窓の上に

アヤイピリ…… アヤイペカレ
ayaypir... a=yaypekare

向かって（飛んで）

エアシラナ
easirana

それこそ

オニツサク レラ
onissak rera

雲のない風

オマウサク レラ
omawsak rera

音のない風の

ウ レラ マウ カ u rera maw ka	風の上
カムイ マウ クルカ kamuy maw kurka	神風の上に
アヤイコシネクル a=yaykosnekur-	軽々と自分を
ウ プンパ カネ u punpa kane	持ち上げて
アトウイ トモトウイエ atuy tomotuye	海を横切り
ウ ヤナン フム コ u yan=an hum ko	陸に向かう音が
コクルラッキ kokururarki	響き渡り
コケウロトツケ kokewrototke	鳴り響く
ウ キ ロク アイネ u ki rok ayne	そのあげく
タネ ネ クス tane ne kusu	もはや
アコッ トマリ a=kor_ tomari	私の港に
アカランケ コロ a=karanke kor	近づくと

ネウン ネ ルウエ
neun ne ruwe

どうしたこと

ウ ネ ナンコラ
u ne nankor y_a

だろうか

【注】

- [1] 笑いながら口にしてこの行は、語り手による独り言か、あるいは意味のある語句ではない可能性もある。笑っているために少し中断したこともあって、次行以下は言い直しとなっている。
- [2] si- 「自分」 kosini 「～のところで休む」 -yar 「～させる」 か？
- [3] ana は不詳の語だが、「chihoma ituren / iki rok ana 恐怖の憑依 / なのだから」(北海道教育庁社会教育部(編)、1990 『アイヌ民俗文化財口承文芸シリーズ 久保寺逸彦ノートⅤ』北海道教育委員会：P85) のように理由を表す接続詞として訳されている例が見られる。
- [4] tektumne は直訳すると「手の力である」だが、「tumi tektumne 戦う気持を」(『クトゥネシリカ』4264行) という訳を参考にした。
- [5] 立派に着飾った神たちが勢ぞろいしているのに、家の主人が長々とつまらない話をしてるので、気の毒に思っているということだろう。